

## 平成 29 年度 第一回 学校協議会 議事録

日時：平成 29 年 7 月 12 日（水）

午後 7 時～8 時 30 分

会場：同窓会館 1 F

### 出席者

（協議会委員） 岡澤潤次様 井関義彦様 北村貴則様  
古川広宣様 田中栄美子様 楠本治様  
（事務局） 准校長 教頭 主査 首席 記録

1. 開会挨拶、准校長挨拶
2. 委員紹介
3. 会長選出：岡澤先生
4. 協議
  - (1) 本校の現状について
    - ◎平成 30 年度 使用教科書について
      - ・平成 30 年度と今年度との違い
        - 2 年フードデザイン：食育の一環として実施。ネグレクトや育児放棄などの課題を抱えた生徒に対しての支援教育も兼ねている。
        - 3 年MOUSA I：生徒が理解しやすい教材であるため取り扱う。
      - その他改訂版、新訂版あり
    - ◎全国高等学校定通総合体育大会への出場について
      - ・全国大会出場
        - 陸上競技部 男子 1 名
        - ソフトテニス部 女子 6 名
      - その他に卓球、バスケ、軽音楽などが活動中。
      - 若い教員が中心になって指導している。クラブ活動がきっかけで不登校生徒だった生徒が、皆勤に近い出席率になるなどの成果を上げている。

## ◎今年度の取り組み紹介

### 1、外部講師の活用

キャリア教育の一環として、体験を通じて本物に触れる教育を展開している。  
本校の教諭の中に入って、技術指導補助などを担当している。(13名、383時間)

### 2、資格取得状況

- ・アーク溶接実技の様子  
実践的な活動により、高い技能の習得ができる。
- ・危険物、情報処理技能検定試験などの資格所得の実績多数あり。

### 3、農園を活用した取り組み

- ・夜間実習用の照明などにより、充実した実践ができる。
  - ・イチゴ狩り 8団体、416名  
保育園の園児と交流しながら収穫する。  
生徒が授業前にボランティア委員として地域連携に貢献。(49名)
  - ・PTA行事(イチゴ狩り、夏野菜収穫等)  
文化祭でおでんを振る舞っている。  
保護者懇談で野菜を配っている。  
希望生徒に配布している。  
家庭科の調理実習、調理検定用に使用している。
- 本校の取り組みと農園は密接に関わっている。

### 4、本校の生徒支援組織

#### ○中退防止プロジェクトチーム(本校は中退防止モデル校)

- ・モデル校目標について  
生活指導：4年間で中退率11.4%以下に
- ・現状：本校13.1%、定時制全体19%  
SSW、特別非常勤講師などの支援あり。
- ・なごみ：生徒に安心提供。木曜は振り返り学習で学習支援
- ・中学校訪問：入学生徒の実態把握。教師間での共有システムを完備。
- ・カウンセリング週間：愛情、安心、安全の提供のために実施している。いじめ防止、  
抑制になっている。対策会議を学期毎に1回程度実施。
- ・チームサポート会議：必要に応じて課題を抱えた生徒への支援、スクーリングを実施。

○昨年度の取り組み

- ・特別非常勤講師の活用
  - 1 年生対象：定時制に通っていた父親の実体験（DVD）
  - 2 年生対象：虐待経験から命の大切さ（講演会）
  - 3、4 年生対象：過労死防止及び労働法制について（講演会）

○体験的な学習の実施

- ・ブドウ園で出荷作業の手伝い（品質を保ちながらのさび取り、梱包）
- ・職場体験、ガラス工房
- ・大阪芸大で吹きガラス体験、染め物、紙すきで名刺作り、活版印刷

○教育相談委員会（SC配置と活用）

- ・教職員のコンサルテーション
- ・生徒・保護者・教職員のカウンセリング
- ・ケース会議での助言。中退防止会議に参加することもある。
- ・教職員研修
- ・初任者研修

○保健部 「相談窓口」

5、基礎的学力養成講座

- ・振り返り学習
  - 中学の時につまづきを感じている生徒に学力養成支援を行っている。
- ・漢字能力検定試験 勉強会

6、生活指導部の取り組みについて

- ・校門当番：生徒への声掛け、不審者侵入の防止
- ・授業巡回：非行への抑止力として実施。注意を促して授業を受けるように持つていく。ゴミ拾い。
- ・校外巡回：藤井寺駅付近を巡回。
- ・交通安全指導：許可制に関して指導。

7、クリーンキャンペーン

- ・地域への奉仕活動として、例えば地域の溝掃除を実施している。

## 8、クラブ活動

- ・全国大会出場  
陸上競技部 男子1名  
ソフトテニス部 女子6名
- ・その他に卓球、バスケ、軽音楽などが活動中。  
バスケ部 大阪二部リーグ優勝  
自尊感情の低い生徒に自信を持たせる。

## 9、支援学校との交流及び共同学習

- ・インクルーシブ教育の一環  
支援学校の生徒とともに共同学習（本校生徒も一緒に）  
食堂学習（食券を買うことが学習）  
トンボ玉作り  
昼食  
イチゴ狩り

## 10、公開講座 地域に開かれた学校づくり

- ・バーナーワーク、陶芸、パソコン講座

### ◎協議会委員より、意見・質問・感想

- ・保護者として学校の取り組みについて、どのように感じておられるのか。  
→初めて学校協議会に参加するので知らないことが多かったが、取り組みが豊富で喜ばしい。
- ・授業時間はどのようになっているか。  
→校時説明（特徴として0時限目や土曜講座の実施等）
- ・クラブ活動の時間はどの時間帯にやっているのか。  
→放課後10時くらいまで。若い先生方を中心に熱心に取り組んでいる。
- ・クラブの生徒の生活サイクルはどうなっているか、アルバイトはしているのか。  
→アルバイトをしている生徒ほど、クラブ活動にも熱心に取り組んでいる。そういう生徒の方が、生活リズムは安定している。  
補足 本校に来ることによって仕事→勉強の好循環
- ・クリーンキャンペーンについて。地域の高齢化により本校生徒が手伝いに来てくれることは非常にありがたい。
- ・卒業式に参加している生徒を見て。高校生活で表情が変わり、生徒を受け入れる

態勢、熱意ある指導に感服している。さらに、卒業後の就職に関する支援も充実している。

- ・(上記に付随して) 就職の現状として現場ではどうか。  
→全日にも劣らない定着率があり、職場では技術的にも安定してきている。  
→もうちょっと人材欲しいくらい。定着の要因として、いわゆる職人層と若年層の価値観のギャップを中間層が埋めることにより実現できている。
- ・細かく生徒を見て、いろんな対策をしている。緻密な対策で良い学校だと思う。
- ・交流会の様子：天候のせい参加人数は少なかったが(4名)、良い学校だなという話をしていた。

みんなで話し合って子育てについて情報共有していた。

「(不登校だった)うちの子が学校に行くようになって、もう卒業したくないくらい」と話している保護者もいた。

「この学校に来て本当に良かった。」という意見があった。保護者は皆非常に協力的である。

#### 4. 本校に期待すること

- ・これ以上はあまりないほど満足している。
- ・中学校から：中学校にも色んな課題をもった子がいる。子どもの居場所づくりのためにという共通意識をもっている。しかし、これらの成果は1日では成っていない。日々の熱意ある指導の積み上げがあるからこそ成就している。中学校でもこのような取り組みに協力し、ともに学んでいきたい。
- ・今年度入学生のうち、退学した生徒の人数は？  
→一人もおらず。
- ・雰囲気としても落ち着いてきた印象がある。

#### 5. 閉会の挨拶、准校長挨拶